

戦後の西ヨーロッパの主要国

戦時中はファシズム国家と戦い、戦後は経済復興を主張する勢力が政権を得た。フランス・イタリアでは大戦中の抵抗運動で重要な役割を担った共産党が勢力を伸ばした。

- 1) イギリスでは、1945年7月の選挙で労働党が圧勝、チャーチルにかわって労働党の【1: 】政権※1が誕生した。戦争に飽いた国民が社会保障の充実などの労働党の政策に大きな期待をかけた結果である。彼は、基幹産業の国有化を進め、同時に社会福祉制度の充実をはかった。「ゆりかごから墓場まで」の標語はこの時期のイギリス労働党がオリジナルである。この内閣の時期に、イギリスはマーシャル=プランを受け入れ、NATO創設を主導、インド・パキスタンの独立、ビルマなどの独立を承認し、委任統治期間の終了に伴いパレスチナから撤退した。1949年、イギリス連邦を離脱したエールは、アイルランドとなった。その後、1956年、イーデン保守党内閣がスエズに出兵して失敗。1960年代、ウィルソン労働党内閣の時代に、ポンド切り下げを行い、スエズ以東から撤兵するなど、世界に於ける影響力が低下した。
※1 このためポツダム会談の出席者が途中からアトリーに交替した。1951年にチャーチルに敗れた。
- 2) フランスでは、大戦時の抵抗の象徴だった【2: 】が臨時共和国政府を樹立したが、1946年の選挙で共産党が第一党となり、共産党を中心とする連合政権が成立した。新憲法の下、1947年に**第四共和政**が発足したが、政情不安定。インドシナ（特にベトナム）やアルジェリアの独立運動をおさえようとして財政難に陥る。共産党・社会党・人民共和派など諸政党が対立。その後、1958年に、アルジェリア駐留軍の反乱を契機に、第二次世界大戦の将軍、ド=ゴールが再び政権を握った。**第五共和憲法**制定（大統領の権限強化）。1962年、アルジェリアの独立を承認した。
- 3) イタリアでは、1945年末以降、キリスト教民主党が政権を担当。46年の国民投票の結果、王政から**共和政**になった。
- 4) 西ドイツ（後掲）では、キリスト教民主同盟の【3: 】首相の下で「奇跡」と言われる経済復興を成し遂げた。1955年、NATOに加盟。再軍備を進める。ソ連と国交回復。

ソ連は東ヨーロッパに「親ソ政権」を作らせた

- 1) 図1のA～Lの国名を記入しよう

- * A 民主共和国（東ドイツ）
- * B 共和国
- * C 共和国
- D 共和国
- * E 共和国
- F 共和国
- * G 共和国
- * H 共和国
- I 王国
- J 共和国
- K 共和国
- L 連邦共和国（西ドイツ）

*印が「東側」である。赤系の色で着色せよ。

- 2) ソ連は、自らの軍事力でナチス=ドイツの支配から解放した次の国々には共産党を中核とする連立政権を作らせ、ソ連の影響下においた。 () 内の記号は図1中の位置を示す。
ポーランド(B)、ハンガリー(E)
ルーマニア(G)、ブルガリア(H)
- 3) 自力でナチス=ドイツから自らを解放した次の国々は、大戦中に抵抗運動を組織した共産党を中心に、社会主義国として再出発した。 () 内の記号は図1中の位置を示す。
ユーゴスラヴィア(F) アルバニア(J)
- 4) チェコスロヴァキア(C)では共産党を含む連立政権ができた。しかし、1948年にチェコ革命（後掲）が起きた。
- 5) ソ連は**自国の安全保障のために東欧に親ソ政権を作らせソ連圏**を形成し、計画経済による発展をめざした。1947年末までに、**チェコスロヴァキアを除く東欧諸国では、共産党一党独裁体制がソ連の支援で確立された**。フランス、イタリア、トルコ、ギリシアでも共産党が勢力を伸ばした。アメリカ合衆国はソ連への警戒感を強めた。



冷戦の始まり

- 1) 1946年、元英首相チャーチルが「ソ連が、バルト海のシュテットインからアドリア海のトリエステを結ぶラインに『鉄のカーテン』を降ろし、その東側に自らの勢力圏を構築している」という【4: 】※2を行った。冷戦の開始を象徴する演説としてしばしば引用される。下線部地名を図1で確認せよ。文学的表現であることが分かる。
※2 アメリカ合衆国大統領トルーマンに招かれて訪米し、ミズーリ州フルトンのウェストミンスター大学で行った演説
- 2) 1947年、アメリカ合衆国大統領トルーマンは、「【5: 】」を宣言した。これは、直接には、ギリシア、トルコを援助し、両国の共産主義化を阻止する決意を表現したものであるが、核兵器を独占し圧倒的優位に立った

アメリカが、地球上のあらゆるところでソ連の影響を阻止し、ソ連に対し「【6: 〃】」を開始したものと見なされている。受験的には、トルーマン・ドクトリン＝「封じ込め政策」、と記憶してよい。なお、1953年を境に「巻き返し政策」に転じる。

- 3) ①東欧・中央に一連の親ソ政権が成立してソ連の勢力圏が形成されたこと（図1参照）②フランス・イタリアで共産党が躍進したこと。これらを警戒したアメリカ合衆国が前掲2)の「封じ込め政策」をとった結果、ヨーロッパで米ソの緊張が生じた。これが冷戦（「戦間なき敵対」）の始まりで、それは1946～1947年である。用語の性質上、冷戦の始期には諸説あり、第二次世界大戦末期だという説もあるし、1948年のヨーロッパ連合条約（後掲）以降だという説もある。終期についてはほぼ一致して1989年のH.W.ブッシュ（パパ）・ゴルバチョフのマルタ会談である。ヨーロッパに始まった冷戦は、軍事同盟を通じて世界化した。なお、1955年、63年には緊張緩和が見られたが、80年代初頭から「新冷戦」が始まった。

マーシャル=プラン

トルーマン・ドクトリン(1947)の実現手段は2つ。①マーシャルプランと②NATOである。②については後掲。

- 1) アメリカは、戦後ヨーロッパの経済的困窮が共産党拡大の原因であると見て、1947年6月、ヨーロッパ経済復興資金援助計画（「【7: 〃】」）を提起し、巨額の経済支援を1948～51年の間に行った。西欧諸国は、1948年、ヨーロッパ経済協力機構（OECE）を結成して援助を受け入れたが、ソ連・東欧諸国はこれを拒否した。
- 2) これに対抗して、ソ連は情報交換機関、【8: 〃】（共産党情報局1947-1956）を結成した。東欧に次々と、共産党一党支配の体制をつくった。そんな時に、マーシャルプランの受け入れをめぐって政府内に対立が生まれていたチェコスロバキアで思いもよらぬ事件が起きた。後掲
- 3) 1949年、ソ連はマーシャル=プランに対抗して東欧に【9: 〃】 COMECONを設けた。

軍事同盟で分断されるヨーロッパ

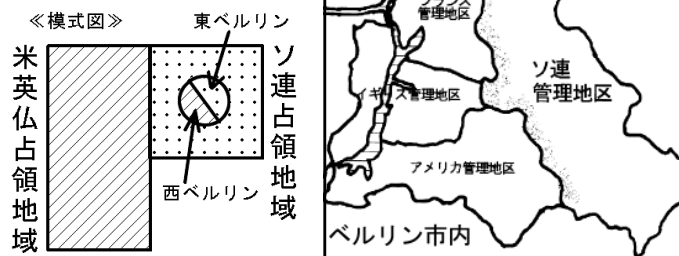
- 1) 前掲図1のポーランド(B、戦後国境線が西に移動した)、ハンガリー(E)、ルーマニア(G)、ブルガリア(H)、ユーゴスラヴィア(F)、アルバニア(J)は、ユーゴスラヴィアを除き(後述)、ソ連型の人民民主主義に基づく社会主義を採用し、土地改革と計画経済による工業化を進めた。
- 2) 【10: 〃】では大統領ベネシュの下で議会制民主主義が守られ、共産党を含む連立内閣が成立していた。1947年7月に政府はマーシャル=プランの受入を決定したが、ソ連の「助言」で取り消した。1948年2月、非共産党の閣僚が辞表を提出。ベネシュは内戦を恐れて辞表を受理、共産党単独政権となった。ベネシュは5月には共産党主導の新憲法への署名を拒んで辞任。これをチェコ革命※3と呼ぶ。国名もチェコスロヴァキア人民共和国となった。この事件は西欧諸国に大きな衝撃を与え、NATOの原型である西ヨーロッパ連合条約締結（1948年3月）の契機となった。
- ※3 チェコ革命(1948)とチェコ事件(1968)の混同に注意せよ。チェコ事件は講義録No.202参照。
- 3) 【11: 〃】はティトの率いるパルチザン運動でナチスからの自力解放に成功した歴史を持つ。1948年、ソ連は同じくマーシャルプランを受け入れようとしたユーゴスラヴィアをコミンフォルムから除名、ユーゴスラヴィアは独自の道を歩むことになる。1949年、ソ連は東ドイツをコミンフォルムに加盟させた。
- 4) 1948年3月、チェコ革命に衝撃を受けた5カ国、イギリス・フランス+ベネルクス3国（ベルギー・オランダ・ルクセンブルク）※4は、【12: 〃】（ブリュッセル条約）を締結し、反共軍事同盟の西欧連合を形成した。これがNATOの原型である。

※4 ユーロッパ経済共同体（EEC 1959）の原加盟国は、フランス・西ドイツ・イタリア+ベネルクス3国

- 5) ユーロッパは2つの軍事同盟によって西側陣営と東側陣営に分断され、「冷戦」は更に深刻化した。
- ①【13: 〃】 NATO 1949年4月発足 アメリカ合衆国を含めた西側12カ国の対ソ軍事同盟
- ②【14: 〃】（東欧8カ国友好相互援助条約）1955年5月 発足 ソ連と東欧6カ国の軍事同盟
- 《蛇足》本当にスパイの職歴を持つヤンフレミング原作の「007」（ダブルオーセブン）は1954年に第一作が映画化された。西側（英）のマッチョでイケメンのプレイボーイスパイ、ジェームズ=ボンドが東側のスパイ組織と戦う。東側陣営＝絶対悪と決めつける単純な価値観が前提。「冷戦」を実感できない若者が見てもおもしろくないだろう。「ボンドガール」とのお色気シーンが強烈で学校ではとても上映できない。/NATO司令官になってワルシャワ条約機構軍との戦闘指揮を行うという不謹慎なソフトが実売されていた。実際にも最悪の時期には両陣営とも戦術核兵器を保有していた。
- 6) オーストリアはいずれの陣営にも属さない。1955年、米・英・仏・ソの占領4大国と国家条約を結び、中立国として独立。

ベルリン封鎖とドイツの分立

- 1) 英・米・仏・ソ4カ国の分割占領下のベルリンは、厳しい東西対立の影響を正面から受けた。
- 2) 1948年、英・米・仏が西側管理地区で通貨改革を行うと、ソ連は抗議してドイツの英米仏占領地域と西ベルリンの間の陸上交通を遮断した。これを【15: 〃】という。西側は食料・燃料を空輸して支えたので封鎖が無意味となり、1949年5月、ソ連は封鎖を解除した。



なお、ベルリン市内の境界線に壁（ベルリンの壁）が作られ、交通が完全に遮断されたのは、1961年8月13日であって、本件の1948年ではないから注意しよう（原因は西ドイツの経済成長による越境亡命の激増）。なお、壁の崩壊は1989年11月9日で、ソ連消滅(1991.12.25)以前であった。

- 3) 1949年5月、【16: 〃】（西ドイツ）成立。首都はボン。ドイツの分立が決定した。1954年のパリ協定で主権回復。翌1955年NATO加盟。
- 4) 1949年10月、【17: 〃】（東ドイツ）建国。首都は東ベルリン。社会主義統一党。

ドイツのメルケル首相（任2005-）は東ドイツで育ち思想信条の自由のない社会を体験している。物理学博士でもある。